

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

事業名 地域高規格道路 濃飛横断自動車道 一般国道257号 中津川工区	事業区分 一般国道	事業主体 岐阜県
起終点 自：岐阜県中津川市駒場 至：岐阜県中津川市茄子川	延長 5.0 km	
事業概要 一般国道257号濃飛横断自動車道中津川工区は地域高規格道路濃飛横断自動車道の一部を構成する道路であり、リニア中央新幹線岐阜県駅へのアクセス性の向上や地域間の観光交流の促進を目的として、中津川市駒場から中津川市茄子川の5.0kmのバイパスを整備するものである。		
H28年度事業化	H27年度都市計画決定	H31年度用地着手
R2年度工事着手		
全体事業費 300億円	事業進捗率 約12%	供用済延長 — km
計画交通量 9,600台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.0 (残事業) 2.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 208/247億円 事業費：201/240億円 維持管理費：7.2/7.2億円
	総便益 (残事業)/(事業全体) 483/483億円 走行時間短縮便益：453/453億円 走行経費減少便益：27/27億円 交通事故減少便益：2.1/2.1億円	基準年 令和2年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.8~2.2(交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.2~2.6(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.8~2.1(事業費 ±10%) 事業費：B/C=2.1~2.6(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.8~2.2(事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.2~2.6(事業期間±20%)		
事業の効果等 ①走行時間の短縮 中津川工区の供用は、中津川市街の渋滞が緩和するとともに、下呂市、恵北地域から中央自動車道、(国)19号間の走行時間の短縮が期待される。 ②リニア中央新幹線岐阜県駅へのアクセス性の向上 中津川工区の供用は、リニア中央新幹線岐阜県駅と中央自動車道、(国)19号を高規格道路で直接結び付けるとともに、下呂方面へのアクセス性を向上させるため、岐阜県駅の利用や地域経済に与える効果の促進につながる。 ③地域連携強化に伴う観光交流等の促進 中津川工区は、中津川市、下呂市、郡上市を結ぶ濃飛横断自動車道の一部であり、中津川工区の供用は地域の連携を強化し、観光交流等の促進につながる。		
関係する地方公共団体等の意見 ・沿線市村で組織する濃飛横断自動車道促進期成同盟会から、東海北陸自動車道と中央自動車道を結ぶ濃飛横断自動車道は、全国有数の観光資源を持つ沿線地域にとって生活圏の拡大のみならず、観光面での経済効果等をもたらす重要な道路として期待されている。また、中津川工区は、中津川市に設置されるリニア中央新幹線岐阜県駅へのアクセス道路として、一日も早い開通を要望されている。		
事業評価監視委員会の意見 ・事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

令和9年完成を目指し、岐阜県内においてリニア中央新幹線本線工事が着手される。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・用地取得率：約33%、事業進捗率：約12%

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更：盛土材の有効利用

- ・他工事との工程調整による建設発生土の有効活用や、新技術、新工法の積極的な活用により、着実なコスト削減に努める。

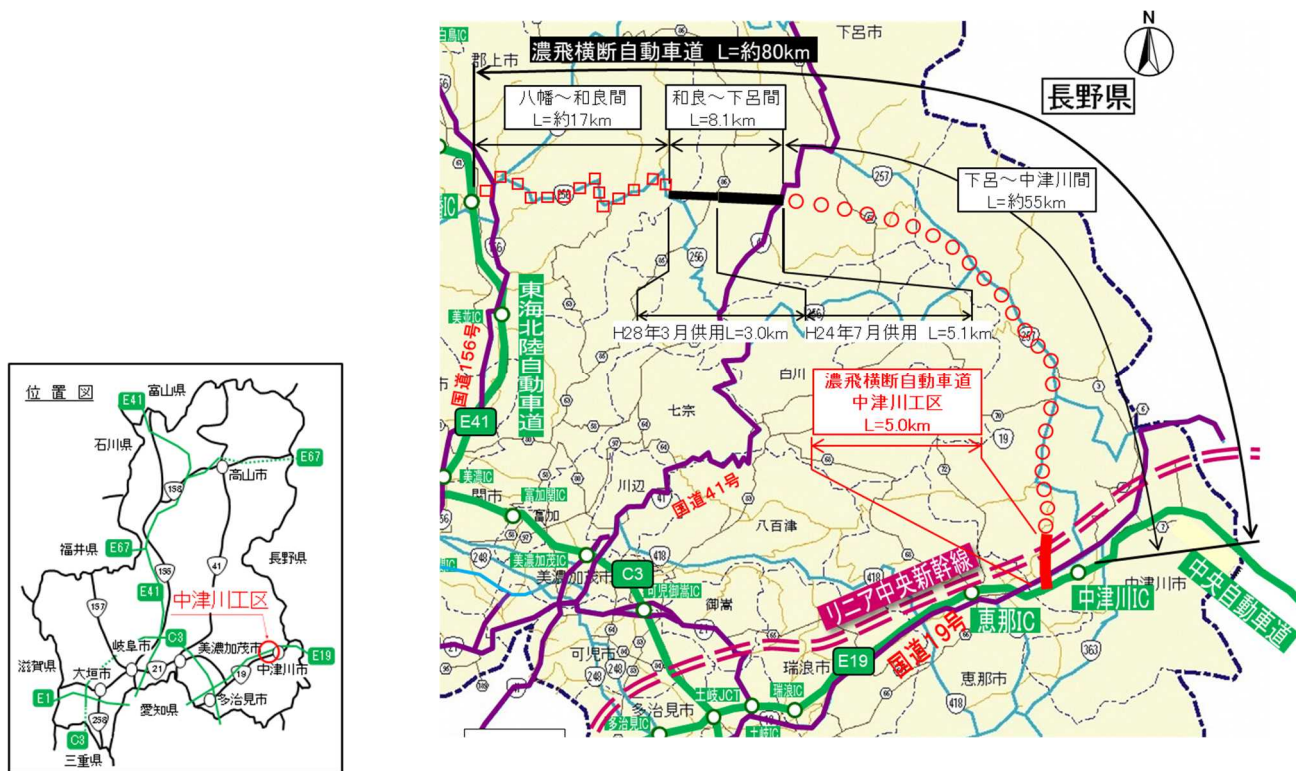
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。